

# I 平成30年度 札幌市子ども議会次第

平成30年12月27日（木曜日）午後1時00分～

1. 開 会
2. 札幌市長・札幌市議会議長・副議長入場
3. 札幌市議会議長あいさつ
4. 平成30年度札幌市子ども議会の概要説明
5. 各委員会の提案、討論及び答弁
  - ・ 災害半端ないって委員会
  - ・ C' <sup>カーモン</sup> <sup>ピーポー</sup> MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会
  - ・ <sup>ユー</sup> <sup>エス</sup> <sup>エー</sup> U.S.A.委員会
  - ・ <sup>エス</sup> <sup>ディー</sup> <sup>ジー</sup> <sup>ズ</sup> <sup>カ</sup> <sup>ッ</sup> <sup>コ</sup> <sup>ト</sup> <sup>ジ</sup> S D G s （札幌だっがんばるッス）委員会
- ＜休 憩＞
6. 市長等との意見交換
7. 平成30年度札幌市子ども議会提案書手交
8. 札幌市長あいさつ
9. 札幌市議会副議長講評
10. 閉 会



## Ⅱ 子ども議員・サポーター及び本会議出席者名簿

### 子ども議員及びサポーター（48名）

#### 災害半端ないって委員会（12名）

海野 桜心	議員	小学4年	巽 佑羽	議員	小学6年
小竹 彩芽	議員	小学4年	林 妃華	議員	中学1年
杉岡 璃音	議員	小学4年	石井 里実	議員	中学1年
土屋 日奈	議員	小学4年	高松 杏都	議員	中学2年
堀江 結愛	議員	小学4年	笹村 健太	議員	高校1年
佐久間 友哉	議員	小学5年	鈴木 絢音	議員	高校1年

#### サポーター（1名）

佐藤 信太

#### カーモンピーポー C' MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会（12名）

川原 千聖	議員	小学4年	竹田 蒼	議員	小学6年
田中 遼	議員	小学4年	遠藤 朱莉	議員	中学1年
小川 和寧	議員	小学5年	國井 祐寧	議員	中学2年
小澤 瑤子	議員	小学5年	土屋 佳歩	議員	中学3年
野村 桃香	議員	小学5年	大城 菽乃	議員	高校1年
宮本 怜奈	議員	小学5年	福永 遥	議員	高校2年

#### サポーター（2名）

高橋 莉紗 平木 克弥

#### ユーエスエー U.S.A.委員会（11名）

五十嵐 佳蓮	議員	小学4年	松本 桃佳	議員	小学6年
國井 菜央	議員	小学5年	野村 拓杜	議員	中学1年
境 桃歌	議員	小学5年	武田 俊介	議員	中学2年
滝本 杏	議員	小学5年	加藤 優斗	議員	高校1年
横平 千奈	議員	小学5年	為田 柚杏	議員	高校1年
田中 心斗	議員	小学6年			

#### サポーター（1名）

渡辺 楓花

#### エスディーゼーズカッコ S D G s （札幌だっがんばるッス）委員会（13名）

黒川 結衣	議員	小学4年	高橋 一颯	議員	小学6年
下田 悠矢	議員	小学4年	池田 葉月	議員	中学1年
高松 遼太郎	議員	小学4年	小倉 寛史	議員	中学1年
中丸 皓太	議員	小学4年	小松 洋翔	議員	中学1年
湊 華	議員	小学4年	吉川 すす	議員	高校1年
渥美 柚羽	議員	小学6年	佐々木 花鈴	議員	高校3年
國分 咲楽砂	議員	小学6年			

#### サポーター（1名）

託問 広海

---

### 出席した札幌市の職員

札幌市長	秋元 克広	危機管理対策室長	中塚 宏隆
副市長	岸 光右	都市計画担当局長	中田 雅幸
教育長	長谷川 雅英	保健福祉局長	木下 淳嗣
教育委員	池田 官司	環境局長	平木 浩昭
教育委員	佐藤 淳	子ども未来局長	可児 敏章
教育委員	石井 知子		

---

### 列席者

札幌市議会議長	山田 一仁	札幌市議会副議長	三宅 由美
---------	-------	----------	-------

---

## Ⅲ 本会議録

午後 1 時00分開会

### 1. 開 会

○吉川すず議長 皆さん、こんにちは。

これから、平成30年度札幌市子ども議会を開会します。

私は、議長を務めます吉川すずです。よろしくお願いいたします。



### 2. 札幌市長・札幌市議会議長・副議長入場

○吉川すず議長 初めに、秋元市長さんと、いつもこの議場で議長、副議長を務めておられる札幌市議会の山田議長さん、三宅副議長さんを、拍手でお迎えしたいと思います。

〔秋元市長、山田議長、三宅副議長入場〕

○土屋佳歩副議長 私は、副議長を務めます土屋佳歩です。



本日は、私たち子ども議員が考えたまちづくりについての提案を、秋元市長さん、山田議長さんをはじめ、提案に関係するお仕事をされている市役所の職員の皆さん、傍聴に来てくださっている方々に聞いていただけることをとてもうれしく思います。これから、私たちが考えた提案を発表しますので、皆さん、よろしくお願いいたします。

### 3. 札幌市議会議長あいさつ

○吉川すず議長 ここで、札幌市議会の山田議長さんからごあいさつをいただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

○山田一仁札幌市議会議長 子ども議会の議員の皆さん、こんにちは。ようこそ、札幌市議会の本会議場にいらっしゃいました。私は、札幌市議会議長の山田一仁でございます。私の隣に座っておられる方が、副議長の三宅由美さんでございます。どうぞよろしくお願いいたします。



私は、昨年もこの子ども議会に参加させていただき、本当に素晴らしい発表を聞かせていただきました。子ども議員の皆さんが自分の考えを自分の言葉で積極的に発表している姿がとても印象的でありました。

今年も、48名の子ども議員の皆さんが、10月から3カ月間、市役所の仕事について一生懸命

命勉強し、話し合いを重ねて、提案をまとめられたと聞いております。皆さんが発表してくれた提案については、市長をはじめ、担当する職員の方々が今後のまちづくりにどのように活かしていくのか、答弁してくれるものと思います。

私も、皆さん方と市役所の方々の議論を聞きながら、札幌のまちをもっと良くするためにどうすれば良いか、一緒になって考えていきたいと思っております。

この後は、皆さん方の提案内容を発表していただきますが、市長をはじめ、大勢の方々の前で発表することはなかなか経験することができない貴重な機会であります。少し緊張するかもしれませんが、失敗を恐れず、元気いっぱい発表してもらいたいと思っております。そして、ぜひとも、この貴重な経験を糧に、これからの学校生活で大いに飛躍していただきたいと期待しております。

最後になりますが、本日、お集まりの保護者の皆様、子ども議員の活動を支えてこられた学生サポーターの皆様、関係者の皆様に敬意を表しますとともに、本日、傍聴に来られました多数の皆様にも感謝申し上げます、私からのごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

**○吉川すず議長** ありがとうございました。

#### **4. 平成30年度札幌市子ども議会の概要説明**

**○吉川すず議長** それでは、土屋副議長から、子ども議会の概要について説明します。

**○土屋佳歩副議長** 私たち子どもには、自分に関わることに参加し、意見を表明する権利があります。この意見表明権は、札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例において、子どもの大切な権利の一つとして定められています。

子ども議会は、小学4年生から高校3年生までの子どもが、札幌のまちづくりについて学びながら、意見表明権の理念に基づき、札幌市の一員として、まちづくりの提案をするものです。

今年は、北海道胆振東部地震の影響により、子ども議会の開催が遅れてしまいましたが、私たち子ども議員は、10月から、これまで5回にわたり、四つの委員会に分かれて、まちづくりに関するテーマについて話し合いを行ってきました。

委員会活動では、市役所の職員の方と勉強会をしたり、意見を出し合ったりして、自分たちが住むまちをより良くするためにはどうすれば良いかを考え、提案を作りました。

本日は、私たちの提案に対して、秋元市長さんをはじめ、市役所の皆さんから答弁をいただき、まちづくりについて意見交換を行います。私たちの提案や意見が今後の札幌のまちづくりに活かされることを願っています。

## 5. 各委員会の提案、討論及び答弁

○吉川すず議長 それでは、最初に各委員会の提案発表を始めます。

提案を発表するときに、各委員会が作成したポスターを議場の中でご紹介しますが、お手元の資料にも写真がありますので、そちらもご覧ください。

最初は、災害半端ないって委員会の提案です。災害半端ないって委員会の皆さん、よろしくお願いします。

〔災害半端ないって委員会子ども議員登壇〕

### ①災害半端ないって委員会

○海野桜心議員 こんにちは。災害半端ないって委員会です。

私たちの委員会名の由来は、今年話題になった「大迫半端ないって」と委員会のテーマである災害をかけたものです。

私たちは、大雨で洪水や土砂崩れが起きる前に、みんなが安全に避難するためには、家庭、学校、地域で、普段から、そして、災害時にどうしたら良いかを話し合いました。



○小竹彩芽議員 今年9月の北海道胆振東部地震によって大勢の方が亡くなられ、私たちもまた、電気や水道の使えない生活を経験して、改めて防災の重要性を感じました。

○杉岡璃音議員 今まで直接、私たちが災害の被害者になるとは思ってもみませんでした。今回の地震のように、災害は決してひと事ではなく、いつ自分の身に振りかかってきてもおかしくはないのだと実感しました。

また、今回の地震がもしも冬で、もっと大きなものだったらと考えると、大変恐ろしいことだと思いました。

○土屋日奈議員 職員さんとの勉強会では、大雨による豊平川堤防決壊のシミュレーション映像を見せていただき、災害時には正しく情報を収集して、迅速に避難することが肝心で、自分や家族、友達など大切な人が命を落とすことのないように、みんなが高い防災意識を持つことが重要だと学びました。

○堀江結愛議員 札幌市では、避難情報の発令、ハザードマップや防災マニュアルなどのパンフレットの配布を行っています。しかし、避難情報が出されても避難しない人、避難場所がわからない人、災害用の備蓄をしていない人など、まだまだ防災意識が低い人が多くいることがわかりました。

○巽佑羽議員 また、防災をテーマに議論していた私たち子ども議員が、委員会の宿題として家族などと防災について話し合うことにしたときでさえ、実際に話し合った子ども議員は二人しかおらず、家庭内で話し合うきっかけがなかなかないことがわかりました。

○林妃華議員 私たちは、札幌市民全体の防災意識を高めるためには、まず私たち子どもが防災について学び、私たちから大人に伝えていけば良いと考えました。そのために、子どものための防災教育を充実させることが必要です。そこで、札幌防災検定を実施します。

○石井里実議員 札幌防災検定に札幌市で起こり得る災害の想定した問題を取り入れることで、受験者は災害について想像しやすく、災害時の実用性が高まると思います。

また、避難所運営ゲーム（HUG）のような体験型の試験を取り入れると、子どもが楽しみながら学ぶことができます。

○高松杏都議員 次に、私たち子どもが、より身近に防災について学ぶために、「子ども防災部」を作ることを提案します。

今回の子ども議会の活動で防災について学んできましたが、知れば知るほど、もっと知りたいと思うようになりました。今後も子ども防災部の活動を通して、いろいろな場所を見たり、他の人の話を聞いたりして、防災の知識を身に付けていきたいです。

○笹村健太議員 そして、学んだことを活かして、防災検定の問題を作ったり、私たちから家族や友達に話したりして防災の輪を広げていければ、周りの人たちが高い防災意識を持つきっかけになると考えています。

この「子ども防災部」を札幌市に支援してもらえれば、私たちだけではできないこともできるようになると思うので、ぜひ支援してください。

○鈴木絢音議員 札幌には、「他日五州第一都」という言葉が伝わっています。「他日五州第一都」とは、北海道開拓の父である島義勇の言葉で、意味はいつか札幌が五大陸で一番になるという意味です。

この言葉のように、札幌が世界一災害に強いまちになるために、これからも私たちは防災について学んでいきたいと思います。

以上で、災害半端ないって委員会の提案を終わります。

○吉川すず議長 ただいまの災害半端ないって委員会からの提案について、何か質問や追加提案のある子ども議員はいますか。

発言をしたい方は、挙手をお願いします。

U.S.A.委員会の國井菜央子ども議員。

○國井菜央議員 U.S.A.委員会の國井菜央です。

札幌防災検定と子ども防災部について、誰を対象に行い、どのようにして興味を引こうと考えていますか。



○吉川すず議長 ただいまの質問について、回答をいただきたいと思います。

○笹村健太議員 子ども防災部は、私たち子ども議員による自主的な活動として始めます。



子ども防災部では、災害に関連する施設の見学や災害の専門家による講義を行うことで、他の子どもたちにも興味を持ってもらえると考えております。そして、やがては、この活動の輪が広がり、多くの子どもたちが参加してくれることを期待しています。

また、防災検定については、子どもの防災教育の一環として、小学生から高校生までも対象に考えています。

○吉川すず議長 ありがとうございます。

他に質問はありませんか。

エスディーズカッコ S D G s (札幌だってがんばるッス)委員会の高橋一颯子ども議員。

○高橋一颯議員 エスディーズカッコ S D G s (札幌だってがんばるッス)委員会の高橋一颯です。

防災について、家庭内で話し合うきっかけがないとのことですが、どうしたら家庭内で話す機会が増えると思いますか。



○吉川すず議長 ただいまの質問について、回答をいただきたいと思います。

○高松杏都議員 子どもたちに防災教育を楽しんで行ってもらうために、先ほど提案した避難所運営ゲームを用いた防災検定を実施します。楽しいことは自然と誰かに話したくなるものですから、家庭内などで防災意識を伝える機会になると考えています。





○吉川すず議長 ありがとうございます。

それでは、採決に移ります。

ただいまの災害半端ないって委員会からの提案に賛成の子ども議員は、その場に起立してください。

(賛成者起立)

○吉川すず議長 全会一致のため、災害半端ないって委員会からの提案は、子ども議員全員の総意として札幌市に提案します。

災害半端ないって委員会の皆さん、ありがとうございます。

子ども議員は、着席してください。

〔災害半端ないって委員会子ども議員降壇〕

○吉川すず議長 ただいまの提案について、お答えをいただきたいと思います。

秋元市長さん、よろしくお願いします。

○秋元克広市長 札幌市長の秋元克広です。

ただいま、災害半端ないって委員会からのご提案をいただきました。そして、子ども議員全員の総意で提案をいただきまして、ありがとうございます。

大きく2点、提案をいただきました。

子どもの皆さんが、まず、災害ということをよく知って、それを周りの人に広げて防災意識を高めていこうということでありまして、防災検定と子ども防災部の設立ということでご提案をいただきました。

ご提案の中にもありましたように、私たちは今年、大きな災害を経験いたしました。普段災害は、いつ起きるかわからない、いつ起きてもおかしくないという状況でありながら、災害時の対応を普段から考えていくことはなかなか難しいわけでありまして、みんながみんな、そのことを考えられている状況ではありません。

そういった中で、災害が起きたときにどのように行動するのかを備えておく、普段から考えておくことが一番大事でありまして、そのことが災害から身を守ることにつながりますし、そしてまた、他の人たちを助けていく、助け合っていくことにもつながっていくのだらうと思います。

防災についての知識を楽しみながらしっかりと学んでいくということの中で、防災検定というご提案をいただきました。本当に、HUGなどのいろいろな訓練を含めて、皆さんが楽しみながら防災に関する知識を学んでいくことが重要でありますし、その知識を活かして自ら



活動していくための子ども防災部という提案でありました。ぜひ、皆さん方で、子ども防災部に向けての活動を自らの行動として動き始めていただいて、そのことを市としても全面的に応援していきたいと思えます。ありがとうございます。

○吉川すず議長 ありがとうございます。

続きまして、C'MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会の提案です。C'MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会の皆さん、よろしくお願いします。

〔C'MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会子ども議員登壇〕

## ②C'MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会

○遠藤朱莉議員 こんにちは。C'MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会です。

委員会名の由来は、今年再ブレイクしたDA PUMPの「U.S.A.」の歌詞をもじったものです。

私たちは、近年減少しているバスの利用者を増加させるためにどうすれば良いか、話し合いました。



○川原千聖議員 私たちの生活の中では、自家用車を利用し、バスなどの公共交通機関を利用することはあまりありません。職員の方との勉強会では、自家用車の保有台数が増えていることや、バスの利用者が減少し、バス事業を取り巻く環境が厳しいことを知りました。

○田中遼議員 また、さっぽろえきバスナビというアプリがあり、どのぐらいバスが遅れているのかがもうすぐわかるようになり、便利になることを知りました。

一方で、このままだとバス路線が減り、自家用車を持っていない人がさまざまな場所に行けなくなったり、自家用車からの二酸化炭素の増加が環境破壊にもつながる可能性があることを学びました。

○小澤瑠子議員 そこで、バスの理想と将来、私たちにできることと、市役所に協力してほしいことを提案します。

最初のバスの理想と将来についてですが、私たちは、バスが多くの人にとって楽しい場所になってほしいと考えます。子ども連れの家族がバスを利用するようになり、バスに乗

ることを良いこと、楽しいことだと思ってもらえたりすると思います。

詳しくは、資料をご覧ください。

**○野村桃香議員** そこで、私たちにできること、札幌市と協力してできることを話し合いました。

その結果、一つ目がバスにみんなが乗りたくなるような情報を冊子で広報をすること、二つ目が季節ごとにバスの車内に飾りつけをすることだと考えました。

一つ目の提案理由ですが、バスの利用者を増加させるには、バスの利用者の減少や環境問題、高齢者の車の事故などを広報する手段もありますが、みんながバスに乗りたいと思える楽しい広報が一番だと考えたからです。

**○宮本怜奈議員** そこで、私たちは、バスで楽しく出かけられるように、バス沿線のお店紹介やお得な割引情報などがある冊子をバス停に置くことを考えました。

そして、バス沿線が観光地になるだけでなく、バス停そのものも観光スポットになると良いと考えます。長崎には、フルーツバス停というフルーツの形のバス停があります。札幌でも、熊やラーメン、タマネギなどをモチーフにしたフォトジェニックスポットを作ったらどうでしょうか。

**○竹田蒼議員** もし、これが実現したならば、僕たちはバスに関することを家族や友人と話し合ったりして、バスを使うように身近な人にPRしたいです。

また、一緒にバスに乗って遊びに行ったりして、みんなにバスで出かける楽しさを知ってもらい、バスを使うきっかけにしたいです。

**○國井祐寧議員** 二つ目の季節ごとにバスの車内に飾りつけをする提案の理由は、バスに乗ることが楽しくなるからです。

さらに、例えば、七夕の願い事の短冊や、ハロウィンやクリスマスの飾りつけを子どもたちから募集すれば、飾ってもらった子どもたちの家族もバスに乗りに来ると思います。

**○大城萩乃議員** そして、絵本や漫画、小説、雑誌など、子どもから大人まで楽しめる本をバス車内に置いて、図書館のように本を貸し出すと良いと思います。そうすることで、違う本を読みたくなったり、本を返すために、またバスに乗ってくれる人が増えると思います。

**○福永遥議員** 私たちは、バス車内の飾りつけを作ったり、いらなくなった本を寄附したりします。このような取組を通して、私たちが札幌市と協力して、バスを積極的に使う人が増えると良いと思います。

以上で、C' MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会の提案を終わります。

○吉川すず議長 ただいまのC' MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会からの提案について、何か質問や追加提案のある子ども議員はいますか。

発言をしたい方は挙手をお願いします。

エスディージャーズカッコ  
SDGs（札幌だってがんばるッスカッコトジ）委員会の高松遼太郎子ども議員。

○高松遼太郎議員 冊子ができたら、どんなところに行きたいですか。



○吉川すず議長 ただいまの質問について、回答をいただきたいと思います。

○川原千聖議員 地下鉄やJRでは行けない住宅街にある穴場スポットを冊子に書いて、みんなに行ってほしいと思います。



○吉川すず議長 ありがとうございます。

他に質問はありませんか。

災害半端ないって委員会の海野桜心子ども議員。

○海野桜心議員 災害半端ないって委員会の海野桜心です。

バスで本を貸し出すと、普段バスを使わない人や観光客の人などは本を返せないの、自由に持ち出しや寄附ができるようにした方がより良くなると思います、どうお考えでしょうか。



○吉川すず議長 ただいまの質問について、回答をいただきたいと思います。

○田中遼議員 私たちの委員会でも同じような意見があったので、この意見も良いと思います。しかし、みんなが本を持っていくとなくなってしまうので、持ち出した人はできるだけ本を寄附してくれると良いと思います。



○吉川すず議長 ありがとうございます。

それでは、採決に移ります。

ただいまのC' MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会からの提案に賛成の子ども議員は、その場に起立してください。

(賛成者起立)

○吉川すず議長 全会一致のため、C' MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会からの提案は、子ども議員全員の総意として札幌市に提案します。

C' MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会の皆さん、ありがとうございました。 子ども議員は着席してください。

[C' MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会子ども議員降壇]

○吉川すず議長 ただいまの提案について、お答えをいただきたいと思います。

秋元市長さん、よろしく申し上げます。

○秋元克広市長 ただいま、C' MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会の皆さんからの提案をいただきました。そして、子ども議会の議員全員の総意でご提案をいただきまして、ありがとうございます。

ご質問、ご提案の中にもありましたように、札幌市の交通体系、公共交通ですが、地下鉄やJRの他に、そこからさらにバスで全市域内全体にバス路線が走っているという状況になっています。そういう意味では、市民の皆さんの足となるバスは非常に大事ですが、残念ながら、ご提案の中のお話にもありましたように、バスの利用者が年々減少しています。

そして普段、バスを利用していますかという質問をしたら、55%を超える方から、ほとんど使っていないというお答えもありました。

このままでいくと、この大事なバス路線をずっと維持していくことができないという大変な状況になってしまいますので、多くの人たちにバスに乗っていただく、使っていただき、バス路線をずっと続けていくことが重要になっていきます。そういう意味で、皆さんからご提案をいただきましたバスに乗りたくなるということは、大変重要なことだと思っています。

一つは、お店の情報や観光の情報など、皆さんの役に立つ、近隣のいろいろなお得な情報の発信をしていくことが非常に大事だと思いますし、地域地域の特産品をテーマにした情報というものを冊子にして皆さんに見ていただくのは、大変有効なアイデアだと思います。

それから、二つ目の提案は、季節季節でいろいろな楽しい仕掛け、飾りなんかはどうだろうかということでした。クリスマスやハロウィンなど、季節のイベントごとに楽しい装飾があったりということを皆さんに楽しんでいただく、わくわくしてバスを使ってみよう、乗ってみようと思ってもらえるアイデアだったのではないかと思います。

そういう意味では、皆さんからのアイデアも含めてですが、もっともっとバスを使いやすくなる、楽しくなるようなことを皆さんと一緒に考えていって、多くの人たちにバスを使っていただくのは大切なことだろうと思います。ぜひ、皆さんの提案は、バスを運行している会社の方々にもお伝えしていきたいと思ひますし、札幌市としても、バスをはじめとした公

公共交通機関を利用する皆さんに多く使っていただくための手だてについて、皆さんのアイデアを参考にして考えていきたいと思えます。ありがとうございます。

○吉川すず議長 ありがとうございます。

続きまして、U.S.A.委員会の提案です。U.S.A.委員会の皆さん、よろしくお願いします。

[U.S.A.委員会登壇]

### ③U.S.A.委員会

○滝本杏議員 皆さん、こんにちは。U.S.A.委員会です。

私たちの委員会名の由来は、障がいのある方を、「Always：常に」、「Understand：理解」し、「Save：助け合う」という考えを、今年流行した曲の「U.S.A.」とかけたものです。



○五十嵐佳蓮議員 職員の方との勉強会では、世の中にはさまざまな障がいがあり、これに対応するコミュニケーション手段があることがわかりました。そして、障がいのある方には、それぞれに合った対応、コミュニケーションをすることが大切だということも学びました。

また、札幌市が平成29年に障がい者コミュニケーション条例を制定、啓発していたり、手話講習会を週に1回開催していたりするということを知りました。

○横平千奈議員 現在、障がいのある方に対してきつい言葉をかけてしまう人を見かけることも少なくありません。これは明らかな差別です。もちろん、その差別をなくすことは大切ですが、周りの人も助けるべきです。

○國井菜央議員 しかし、私たちは、話し合っている過程で、困っている人に声をかけることはとても勇気のいる難しいことだと考えました。実際、私たちの中にも、声をかけよう、助けようと思っても、人見知りをして話しかけることができなかつたというような経験をした人がいました。

○境桃歌議員 職員の方は、大人から子どもまで障がいのある方への理解を広げるためにたくさん努力をしています。私たちは、その努力を背景に、みんなが理解し、助け合うこと

で、差別や偏見のない世界になれば良いなと考えました。

**○田中心斗議員** ここで、札幌市に提案があります。

私たちは、誰か一人が声をかければ、その後にはたくさんの人が続いていくのではないかと考え、そのきっかけとなるようなマークを作れば良いと考えました。そのマークは、助けてほしい人が着けるものではなく、助けられますマーク、つまり助けることができる人が着けるマークです。

**○松本桃佳議員** 上段には助けたいという気持ちがある人が着ける共通のマークを、下段には特定の分野で助けられるという障がいごとのマークを着けることができます。詳しくは、資料をご覧ください。

このマークを作成することによって、困っている人が助けを求めやすくなります。

また、周りにいる人が気付いて、マークを着けている人と障がいのある方に声をかけ、間接的だとしても助けることができるようになります。

**○野村拓杜議員** そして、私たちにとっても、できない手助けを求められる可能性が減り、できる範囲で助けることができます。さらに、もし緊急時、避難しなければならなくなったとき、お互いに助け合い、命を救うこともできます。最終的には、多くの人が助け合いの様子に影響を受けて、差別がなくなれば良いと思っています。

**○武田俊介議員** その一方で、私たち自身は、日頃から積極的にあいさつをすることで問題の解決につながると考えました。困っている人がいても話しかけにくいという現状があるので、話しかけやすくするためには、日頃からそのような心遣いが必要だと考えたのです。

**○為田柚杏議員** 私たちは、大人になるにつれて、近所の方にも、学校の先生にもあいさつをしなくなっているという自覚があります。それは、周囲の人が静かにするような雰囲気を作っていて、次第に消極的になっていくからではないかという意見が出ました。そこで自分から、知り合いにあいさつをする癖をつけておく必要があると考えたのです。

**○加藤木優斗議員** 私たちは、障がいのある方とそうでない方が、常に互いに理解し、助け合うような社会になっていくことを願い、私たち自身も、これまでに述べたとおり、さまざまなことで関わっていきたいと思います。

これで、U.S.A.委員会の提案を終わります。

**○吉川すず議長** ただいまのU.S.A.委員会からの提案について、何か質問や追加提案のある子ども議員はいますか。

発言をしたい方は挙手をお願いします。


災害半端ないって委員会の林妃華子ども議員。

○林妃華議員 災害半端ないって委員会の林妃華です。

助けられますマークを視認することができない視覚障がい者の方への配慮として、点字を用いて助けられることを教えてあげられるようにすると、より良くなると思いますが、どうお考えでしょうか。



○吉川すず議長 ただいまの質問について、回答をいただきたいと思います。

○滝本杏議員 私たちの話し合いの中でも、視覚障がいのある方への配慮について疑問が  
 出ました。提案の中にもありますが、このマークは、自ら進んで助けようという気持ちがある人が着けるものであり、また、周囲の人が視覚障がいのある方に気付いたとき、マークを着けている人に声をかけ、その二人をつなぐこともできると考えました。

また、このマークは、荷物や体に着けて目印にするものだと考えて作成しましたが、点字をつけると、荷物や体に触れる必要があり、これはモラル的にも難しいのではないかと思います。ご意見ありがとうございました。

○吉川すず議長 ありがとうございました。

他に質問はありませんか。


カ' MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会の竹田蒼子ども議員。

○竹田蒼議員 カ' MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会の竹田蒼です。

助けてほしい人が着けるのではなく、助けることができる人が着けるマークを作るという案はすごく良いと思いますが、マークを着ける人を増やすためにはどうしたら良いと思いますか。



○吉川すず議長 ただいまの質問について、回答をいただきたいと思います。

○横平千奈議員 カ' MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会の皆さんの提案によってバスの利用者が  
 が増えることが想定されるので、バスをはじめとした公共交通機関での広告を行うことにより、一定数までのマークの利用者を増やしたいと思います。その後は、マークを着けている人をまちの中で見かけることによって徐々に認知度が高まり、理解が広がっていくと良いと思います。

ご質問ありがとうございました。



○吉川すず議長 ありがとうございます。

それでは、採決に移ります。

ただいまのU.S.A.委員会からの提案に賛成の子ども議員は、その場に起立してください。

(賛成者起立)

○吉川すず議長 全会一致のため、U.S.A.委員会からの提案は、子ども議員全員の総意として札幌市に提案します。

U.S.A.委員会の皆さん、ありがとうございます。

子ども議員は着席してください。

[U.S.A.委員会降壇]

○吉川すず議長 ただいまの提案について、お答えをいただきたいと思います。

秋元市長さん、よろしくお願いします。

○秋元克広市長 U.S.A.委員会の皆さんからご提案いただきました。ありがとうございます。そして、子ども議会の議員全員の皆さんの総意でご提案をいただきました。ありがとうございます。

障がいのある方とのコミュニケーション、意思を伝え合うということについて、大きく二つの提案をいただきました。

一つは、何かお手伝いをしたいと思ってもなかなか声をかけられない、思い切って踏み出すのが難しいという人が多いということでもあります。そのとおりでありまして、いろいろなアンケート調査をしても、困っている方、障がいのある方に何らかの手助けをしたいと思っても、なかなか声をかけられない、どうして良いかわからないとお答えになる方がたくさんいらっしゃいます。そういう意味では、こういう手助けをしてくださいというヘルプマークと合わせて、こういうお手伝いができますよということをあらかじめ意思表示しておき、コミュニケーションを取り合うということで、大変重要なアイデアをいただいたと思います。

意思疎通をするということは、言葉を含めてですが、お互いのキャッチボールになりますので、どちらかだけの一方向的な意思表示だけではなく、双方が上手く意思をかみ合わせるということが大事であります。そういう意味でも、マークをお互い着け合っていて、その意思を他の人にわかるようにしていくことは大変おもしろい提案だと思います。

障がいを持った方も、そうでない方もいらっしゃいます。お互いの理解を深めていき、そして、お互いの意思疎通をしてコミュニケーションをとっていくということが非常に大事なわけですが、普段から、「こんにちは」、「おはようございます」というあいさつ、声かけをして、初めて会った人にも声をかけていくというのも大変重要なことだと思います。

海外に行くと、初めて会う人に対しても気軽に声をかけていただくことがあります。そういう意味では、日本の人は、私たちもそうですが、少し恥ずかしがり屋というところがありますので、ぜひ、普段からあいさつの声をかけ合い、人と人がコミュニケーションをとっていくことが重要です。これは、障がいのある方に対することだけではなくて、意思疎通を図っていくのは大変重要なことだというふうに思います。

そういう意味では、皆さんからの提案というものは、みんなと一緒に生きる、ともに生きていく共生社会を実現していく上でも、大変重要だと思います。今のマークも含めてですが、どのようにしていけばお互いの意思疎通を上手く図っていけるのかということを含めて、札幌市の政策の中で考えていきたいと思います。ありがとうございます。

#### ○吉川すず議長 ありがとうございます。

最後は、<sup>エスディージェーズカッコ</sup>SDGs（札幌だっカッタコジてがんばるカッタコジッス）<sup>カッタコジ</sup>委員会の提案です。<sup>エスディージェーズカッコ</sup>SDGs（札幌だっカッタコジてがんばるカッタコジッス）<sup>カッタコジ</sup>委員会の皆さん、よろしくお願いします。

〔<sup>エスディージェーズカッコ</sup>SDGs（札幌だっカッタコジてがんばるカッタコジッス）<sup>カッタコジ</sup>委員会登壇〕

#### ④<sup>エスディージェーズカッコ</sup>SDGs（札幌だっカッタコジてがんばるカッタコジッス）<sup>カッタコジ</sup>委員会

○**湊華議員** こんにちは、<sup>エスディージェーズカッコ</sup>SDGs（札幌だっカッタコジてがんばるカッタコジッス）<sup>カッタコジ</sup>委員会です。

私たちは、SDGsの普及・実践について話し合いました。

皆さんは、SDGsとは何か知っていますか。SDGsとは、「持続可能な開発目標」の略称です。



○**下田悠矢議員** 「持続可能な開発目標」、つまりSDGsは、世界共通の目標として、2015年に国連サミットで採択されました。この採択によって、すべての人が平等にチャンスを与えられ、自然環境を壊さずに未来までずっと良い世界が続くように世界中が努力することが約束されたのです。

○**黒川結衣議員** SDGsには、「貧困をなくそう」という目標や、「人や国の不平等をなくそう」という目標など、今、私たちが住む世界が直面しているさまざまな問題を解決するために目指すべき17個の目標が挙げられています。

**○中丸皓太議員** また、それら17個の目標には、169個の具体的な取組内容が示されており、「誰一人取り残さない」を理念として、2030年までに全部の目標を達成するため、現在、世界的に取り組んでいます。

**○高松遼太郎議員** 一見難しいことのように感じますが、私たちは、勉強会を通じて、SDGsは身近なものであることを学びました。例えば、SDGsの目標に関連づけられる身近な事例には、食べ残しやリサイクルなどがあります。

**○高橋一颯議員** リサイクルを事例として説明すると、リサイクルは資源を再利用するということですが、生産者と消費者の両方が責任を持って行わなければならないので、「つくる責任つかう責任」という12番目の目標に密接に関連します。

また、リサイクルにより、ごみを減らすことで、二酸化炭素の排出を抑え、地球温暖化の防止にも役立つので、「気候変動に具体的な対策を」という13番目の目標にもつながります。

**○渥美柚羽議員** さらに、地球温暖化の防止は、海水温の上昇を防ぐことで海の豊かさを、砂漠化や異常気象を防ぐことで陸の豊かさを守ることにつながるので、14番目の「海の豊かさを守ろう」という目標と、15番目の「陸の豊かさを守ろう」という目標にもつながります。

**○國分咲楽砂議員** このように、SDGsは、私たちの生活にとって身近なものであり、少し意識するだけで誰でも実践できるものだわかりました。

そんなSDGsですが、2018年1月に札幌市が行った市民アンケートでは、およそ半数の人がSDGsについて全く知らず、SDGsについて詳しく説明できる人は1%程度という結果が出ていて、知名度はまだまだ低いと言えます。

**○小倉寛史議員** そこで、私たちは、第一にSDGsを周知させるべきだと考え、周知の方法について話し合いました。そして、周知させるための具体的手段として二つのアイデアを考えました。

一つ目は、カフェや弁当などにSDGsを絡ませるという方法です。具体的には、海苔にSDGsのマークや、SDGsについて掲載したウェブサイトを開覧できるQRコードなどを印刷したり、普段なら捨てられてしまう傷物などのB級食材を使うことにより、低価格で提供します。

**○小松洋翔議員** それに加えて、おかずをバランス良くヘルシーなものにすることで、栄養面でのサポートなど、私たちにとっても利点があるものを作ります。

容器は土に還るバイオマスエコ容器、箸はでん粉製のものを使用したりするなど、エコに関するものを取り入れます。健康やエコはSDGsに直結することなので、この取組はSDGsのゴールに近づくものだと思います。

○池田葉月議員 また、私たちが調べてみたところ、土に還るエコなでん粉製の爪ようじはありましたが、でん粉製の箸はまだないようなので、ぜひ開発をお願いします。

そして、二つ目は、学生を対象に、SDGsに関連したクリアファイルを配ります。パンフレットと違って捨てられにくく、ポスターよりも見る機会が多いクリアファイルを選びました。

○佐々木花鈴議員 このクリアファイルには、SDGsを達成できた未来とできなかった未来をCG写真やイラストで描きます。これにより、理想の未来を明確化させることができます。

以上の取組を経ることで、札幌市民全体のSDGsに対する意識や知名度の上昇、また、それに伴い目標の実践や達成などができれば良いと思います。

これで、私たち<sup>エスディー・ジーズ・カッコ</sup>SDGs（札幌だっpegんばるッス<sup>カッコトジ</sup>）委員会の発表を終わります。

○吉川すず議長 ただいまの<sup>エスディー・ジーズ・カッコ</sup>SDGs（札幌だっpegんばるッス<sup>カッコトジ</sup>）委員会からの提案について、何か質問や追加提案のある子ども議員はいますか。

発言をしたい方は挙手をお願いします。

<sup>カ・モン</sup>C' MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会の宮本怜奈子ども議員。

○宮本怜奈議員 <sup>カ・モン</sup>C' MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会の宮本怜奈です。

SDGsの中の17個の目標を達成するために身近なことから取り組むということはとても良いと思いますが、SDGsの目標のうち、何個かでも良いので、SDGsとともに、知名度を上げたらどうですか。



○吉川すず議長 ただいまの質問について、回答をいただきたいと思います。

○小倉寛史議員 初めてSDGsという言葉聞いた方は、17個の目標を多いと感じたのかもしれませんが、私たちは、SDGsの17個の目標は、どの目標をとっても重要なものであり、どれ一つとして欠けることなくすべて達成しなければならないことであると学んだので、あえて特定の目標を選ばず、17個すべての目標の知名度を上げていきたいと考えております。



○吉川すず議長 ありがとうございます。

他に質問はありませんか。

<sup>ユー・エス・エー</sup>U.S.A.委員会の境桃歌子ども議員。

○境桃歌議員 <sup>ユー・エス・エー</sup>U.S.A.委員会の境桃歌です。

皆さんは、SDGs、持続可能な開発目標について、持続可能な社会とは具体的にどのような社会だと解釈しましたか。



○吉川すず議長 ただいまの質問について、回答をいただきたいと思います。

○池田葉月議員 私たちは、持続可能な社会を、今のこの社会の中で、人や自然に悪影響を及ぼすような悪いものは自ら進んで改善できる社会であり、反対に、私たちの生活に良い影響を与えてくれる良いものは、そのまま後世に受け継いだり、さらに発展させていける社会と考えました。



○吉川すず議長 ありがとうございます。

それでは、採決に移ります。

ただいまのSDGs（札幌だつてがんばるッス）委員会からの提案に賛成の子ども議員は、その場に起立してください。

（賛成者起立）

○吉川すず議長 全会一致のため、SDGs（札幌だつてがんばるッス）委員会からの提案は、子ども議員全員の総意として札幌市に提案します。

SDGs（札幌だつてがんばるッス）委員会の皆さん、ありがとうございました。  
子ども議員は着席してください。

{SDGs（札幌だつてがんばるッス）委員会降壇}

○吉川すず議長 ただいまの提案について、お答えをいただきたいと思います。

秋元市長さん、よろしくお願いします。

○秋元克広市長 SDGs（札幌だつてがんばるッス）委員会の皆さん、ありがとうございます。そして、子ども議会の議員全員の総意でご提案をいただきました。ありがとうございます。

SDGsという国際的な開発目標を取り上げていただきました。非常に大切な事柄であります。SDGs自体をご存じない方がたくさんいらっしゃるということでもあります。

札幌も、今年6月ですが、SDGs未来都市に選ばれまして、環境やエネルギー対策を中心に、この国連の開発目標に即した取組を進めてきています。しかし、この取組をもっともって進めていくためには、市民の皆さん一人一人がいろいろな行動をとっていただかなければならない、皆さんと一緒に取り組んでいかなければならないことがたくさんあります。そうしていかなければ、例えば環境に影響があるような事柄は極力やめていく、環境に良いこと、エネルギーということで、まさに持続可能なことにつながっていく事柄については積極的に取

り組んでいただかなければいけませんので、多くの方にこのことを知っていただいて、一緒になってその目標に向かって取り組んでいかなければいけないわけであります。

しかしながら、まだまだほとんどの方がご存じないという状況にありますので、皆さんからの提案をいただいて、SDGsの開発目標を多くの方に知っていただいて、実際に身近な生活の中で行動していただくということが必要になります。

そのためには、例えば、食べるもの、お弁当をこの開発目標に即したエコなものであったり、あるいは、いろいろな食材を考えたり、身近なこととして考えられるようなことを作り出して、それを皆さんに知っていただくことは大変重要なことでもあります。身近に感じていただく手段として、非常に興味深い提案だと思っています。

そういう意味では、クリアファイルなど、皆さんが普段から使っているものの中で、わかりやすくSDGsを知ってもらうアイデアも大変おもしろく聞かせていただきました。そういう意味では、SDGsの開発目標を多くの方に知っていただき、そして、実際に身近なことで自分たちができることを行動していただくことによって開発目標が達成されていくわけでありますので、身近なことから皆さんに知っていただく工夫を札幌市のいろいろな取組の中でも考えていきたいというふうに思います。ご提案、ありがとうございます。

**○吉川すず議長** ありがとうございます。

以上で、各委員会の提案と答弁を終わります。

ここで、休憩をとりたいと思います。

**<休 憩>**

休憩 午後2時

再開 午後2時15分

## **6. 市長等との意見交換**

**○吉川すず議長** 時間となりましたので、再開します。

ここからは、副議長が議事の進行を務めます。

**○土屋佳歩副議長** これから、意見交換を行います。

まずは、子ども議員から札幌市への質問です。

質問がある人は挙手をして、指名されたら最初に委員会名と自分の名前を言って質問してください。

それでは、質問がある方は挙手をお願いします。

災害半端ないって委員会の堀江結愛子ども議員。

○堀江結愛議員 災害半端ないって委員会の堀江結愛です。

北海道胆振東部地震を経験して、札幌市として大変だったことや学んだこと、また、市民に伝えたいことは何ですか。



○土塚佳歩副議長 ただいまの質問について、回答をいただきたいと思えます。

中塚危機管理対策室長さん、よろしくお願いします。

○中塚宏隆危機管理対策室長 危機管理対策室長の中塚と言います。



大きく三つほどご質問をいただきました。

まず、札幌市としてこの地震で大変だったこととして、いろいろありましたが、三つほど回答させていただきたいと思えます。

まず一つは、避難所の開設です。大雨や台風のときには、危険と思われる場所を指定して、その避難所を順次開けていきますが、今回は地震が市内全域ということもありましたので、市内の300カ所あるすべての避難所を同時に開設しました。当然のことながら、一番多いときで1万人を超える市民が避難されたということで、運営も含めていろいろと大変だったと感じています。

それと、市内全域に及んだ停電でございます。テレビが使えない、あるいは固定電話も使えないということで、皆さんと一般の市民の皆さんからの情報を集めることも難しく、また、私どもの方からいろいろな情報を提供したいと思っても、その手段が限られていたということで、情報収集あるいは皆さんへの情報提供、連絡体制というものに非常に難しさを感じたところでございます。

もちろん、地震による被害というものが大変大きかったと思いますが、今も、清田区の里塚は、まだ復旧、復興の途中でございます。これは、大変だったというよりは、これから大変だということになると思っています。

二つ目としては、学んだことは何なのかということですが、札幌は、これまで、自然災害の少ない都市というイメージがありました。私も心の中ではそのように思っておりましたが、やはり札幌も例外ではない、自然の驚異、自然の猛威というものを本当に感じたと思っております。

それと、停電などもそうですが、普段からものを備えておくことの大切さ、さらには、避難所を開設するにしても、災害の本部を立ち上げるにしても、普段から訓練しておくといった積み重ねが本当に本番のときに生きるのだなと改めて学びました。

そして、何よりも、私ども市役所など行政だけでこういった災害に立ち向かえるものではなく、皆さんをはじめ、地域の人々や地域の企業あるいは団体、そういった皆さんの力を集めないと上手く対応できないなということを何よりも感じたところであります。

三つ目は、市民の皆さんに伝えたいことは何なのかということですが。

札幌市は、今回、震度6弱という大きな地震でしたが、計画で想定している中で一番大きいのは震度7です。今回の地震よりもはるかに強い地震が起こると、被害も大変大きなものになります。でも、地震というのは、台風や大雨のように、これから来るぞというのがあらかじめわからない状況ですから、市役所などの行政機関もそうですが、自衛隊や消防、警察という救助部隊の皆さんも、起こったときに直ちに地域の皆さんのところに飛んではいけません。

そのときに、では何が大切なのかということ、そこに住んでいる人たちが皆さんで助け合うこと、そして、あらかじめ、いろいろな備えをしておくことが大切で、皆さんに一番伝えてほしいことだと思っています。

こんな話があります。

ある町内では、見守りが必要なお年寄りがいらっしやいますが、その人たちを町内会の人たちがみんなで手分けして、大丈夫かどうかということ調べて回ったということです。これは、普段から顔の見える関係があって、しかも、近所同士のつながり、あるいは、いつも声をかけ合ってコミュニケーションができているところでなければなかなかできないと思います。そして、なおかつ、そういった訓練、練習を普段からしていたのではないかと、そういうものの大切さというのをお伝えしたいなと思います。

皆さんもできます。高層マンションで高い階の方にお年寄りの方がいらっしやって、水が出なくなったので困っていたところに、高校生の皆さんが水を階段で上まで上がって行って届けてくれたというニュースもありました。こういう子どもでも、あるいは、皆さんのような人たちでも十分にできることがたくさんあります。子どものころから、皆さんの年齢のころからそういったことを常に意識して、気持ちの中で普段からそういうことを考えておいていただけると本当に大切なのではないかと思っておりますので、そういうこともぜひ伝えていただきたいと思っております。

あわせて、今回、実は、札幌市から皆さんのご家庭に地震防災マップというものを配布させていただきました。その裏を見ていただきたいのですが、例えば、避難所に行ったときにはどうしたら良いのか、あるいは、普段からどういうものを備えておけば良いのか、冬場はどういうことに気を付けなければならないのか、夏以上にこういうことも備えておかなければならないなどのいろいろな情報が入っています。どうか、お家に帰られたら、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんと一緒になって見ていただいて、我が家ではどういうものがあるかな、足りているかな、備わっているかなというのをいろいろと相談していただいたり、あるいは、近くにお住まいの人の中に、たった一人で住んでいるおじいちゃんとかおばあちゃんがいらないか、もしいらっしやったら、そういう方々を万が一のときに誰が助けに行ったら良いのか、あるいは、誰かが知らせにいかなければならないねというようなこともあわせてお話ししておいていただきたい、そういうことの大切さというのを市民の皆さんにお伝えしたいと思っております。



○土屋佳歩副議長 ありがとうございます。

他に質問はありませんか。

カ' MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会の野村桃香子ども議員。

○野村桃香議員 カ' MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会の野村桃香です。

最近、札幌に来る外国人観光客が増えています。もっとバスを利用してほしいと思いますが、外国人観光客が気軽に乗れるような対応はしていますか。



○土屋佳歩副議長 ただいまの質問について、回答をいただきたいと思います。

中田都市計画担当局長さん、よろしくお願いします。

○中田雅幸都市計画担当局長 都市計画担当局長の中田と言います。



外国人観光客の方が気軽にバスに乗れるような取組について、私の方からお答えいたします。

先ほどの皆さんからの提案の中で、えきバスナビというアプリのご紹介がありました。このえきバスナビは、公共交通をより便利に利用していただくために、時刻表や乗り継ぎ経路、運賃などの情報を英語、中国語、韓国語で提供しておりまして、外国からの観光客にも広く利用していただいているものであります。

また、札幌市内を走るほとんどの路線バスではSAPICAというICカードが使えますが、それに加えまして、Suicaなどの全国で使用可能な10種類のICカードも利用することができますので、それらのICカードを持っていれば、外国からの観光客の方々もスムーズに料金の支払いができることとなります。

さらに、定山溪温泉や羊ヶ丘展望台など、外国からの観光客が多い観光地へ向かう路線バスでは、バスの車外の行き先表示をはじめ、バスの車内の案内表示や音声案内について、英語などの多言語対応となっています。

その他、札幌市では、外国からの観光客の方に向けて札幌観光マップといったものを作成しておりますが、これらは英語、中国語、韓国語、タイ語といった言語で作成して、観光案内所や市内ホテルなどで配付しています。この札幌観光マップには、バスを含む市内の交通情報あるいは定期観光バスの情報を掲載していますので、外国からの観光客の皆さんに多く利用されていると聞いています。また、今年度には、郊外の観光地に行きやすいよう、都心部とモエレ沼公園やサッポロさくらんどなどを結ぶ乗り降り自由な周遊バスというものを試験的に運行いたしました。

このような取組を通じて、外国人観光客がバスを利用しやすくなるようにしているところであります。

さらに、今後は、バスが今どこを走っていて、いつバス停に来るのかというのがスマホで

わかるバスロケーションシステムというアプリをそれぞれのバス会社が順次導入する予定になっています。このアプリは、英語などの多言語で表示されますので、外国からの観光客の方にとって、バスがより利用しやすくなると思っています。

今後も、引き続き、バス会社の皆さんと協力しながら、バスが外国からの観光客にとって乗りやすい乗り物になるように努力していきたいと考えております。

子ども議会の議員の皆様方には、バスの中あるいはバス停、地下鉄駅とか、まちの中で困っている外国人観光客の方を見かけたときには、ぜひ声をかけて手助けをしていただけたらと思っています。そうすることによって、その方は、札幌のまちが大変好きになってくれて、そして、きっとまた札幌を訪れてきてくれるようになると思っています。

○土屋佳歩副議長 ありがとうございます。

他に質問はございませんか。

U.S.A.委員会の松本桃佳子ども議員。

○松本桃佳議員 U.S.A.委員会の松本桃佳です。

札幌市として障がい者コミュニケーションという全国的な問題について、どのように他の都道府県や市町村と関わろうと考えていますか。



○土屋佳歩副議長 ただいまの質問について、回答をいただきたいと思います。

木下保健福祉局長さん、よろしく申し上げます。

○木下淳嗣保健福祉局長 保健福祉局長の木下です。



札幌市として、障がい者コミュニケーションという全国的な問題について、どのようにして都道府県、また、他の市町村と関わろうと考えているかというご質問です。

札幌市では、手話による通訳を行います手話通訳者や、筆談による支援を行います要約筆者など、障がいのある方のコミュニケーションを支援する方を札幌市内で派遣するという取組を行っています。

しかし、障がいのある方の活動の範囲はだんだんと広がってきておりまして、障がいのある札幌市民が旅行や会議などのために市外、道外へ訪れることも多くなっています。他のまちにおきましても、手話通訳などのサポートを必要とするということがあります。

このため、昨年12月から、障がいのある札幌市民が他のまちを訪れる場合にも、手話や筆談といったサポートが受けられるように、そのまちで活動している支援者にサポートしてもらえという仕組みを作りました。今年10月には、視覚、聴覚に障がいのある札幌市民の方から旭川市で行われる講演会に参加したいというご相談がありましたので、関係の方々と相談しまして、旭川市で活動している支援者の方にサポートしていただくことができました。ま

た、他のまちから障がいのある方が札幌市に来られる場合、札幌市の支援者がコミュニケーションをサポートいたします。

他の市町村とは、こういった形でサポートをスムーズに行うための協力関係が必要です。日頃から情報交換を行いまして、連携を密にして取り組んでいきたいと考えています。

また、それぞれのまちに協力してもらえたくさんの支援者の方が必要になりますが、支援者の育成は、札幌市のような大きなまちや、北海道など都道府県の役割となります。札幌市だけではなく、その他のまちでも活動する支援者の育成が進むように、北海道と協力しながら取組を進めていきたいと思えます。

本日、皆さんから提言をいただきました内容をしっかり受けとめまして、障がいのある方がどこでも、誰とでも、その人に合った方法でコミュニケーションができる社会になるように、引き続き取り組んでいきたいと思っております。

**○土屋佳歩副議長** ありがとうございました。

他に質問はありませんか。

エスディージェーズカッコSDGsカッコトジ（札幌だってがんばるッス）委員会の下田悠矢子ども議員。

**○下田悠矢議員** エスディージェーズカッコSDGsカッコトジ（札幌だってがんばるッス）委員会の下田悠矢です。

環境局長が普段の生活や仕事で意識している目標や実施していることを教えてください。



**○土屋佳歩副議長** ただいまの質問について、回答をいただきたいと思えます。

平木環境局長さん、よろしくお願いします。

**○平木浩昭環境局長** 市役所の環境局長の平木です。



まず、今日は、SDGsの普及や実践についてさまざまなご提案をいただきまして、ありがとうございます。

私へのご質問は、私が仕事や私生活で特に意識している目標や実施していることということでありました。

私は、仕事では環境局長ということもありまして、また、私生活では比較的取り組みやすいということもあって、省エネやごみの減量、リサイクルといったこと、SDGsの目標で言うと目標7のエネルギーに関することや、目標12の使う責任のところ、目標13の気候変動対策といったことなどを意識しています。

具体的には、私生活においては、冬の間、家の中でも何枚も厚着をして、暖房を使い過ぎないようにしています。職場ではウォームビズということをやっていますけれども、同じようなことを家でもやっているということになります。

その他には、小まめに電気のスイッチを切ったり、ごみを減らすために、食品を捨てることがないよう、食事を残さず食べたり、ごみの分別ルールを守ったりするなど、身近にできることから取り組むようにしています。

また、仕事においては、今年3月に市役所の環境局でSDGsのゴールと同じ2030年に向けて札幌市の環境対策をどのように進めていくのかということを書いた第2次札幌市環境基本計画を作りました。この計画では、SDGsの目標の達成につながるよう、札幌の環境に関する取組がSDGsのどの目標、どの取組に関連しているのかということを整理して書いています。その内容は、例えば、空気や水、土などをきれいに保つための取組や、省エネやごみを減らすための取組など、とても幅広いものになっています。

また、その一方、SDGsでは、そもそもの大事な考え方として、誰一人取り残さないということ掲げています。これは、自分だけ良ければという考え方ではなくて、周りのみんなのことも考えることが大事ですよというメッセージです。環境の分野でも、自分だけ、今だけ良ければ良いのではなく、周りの自然環境や動植物のこと、そして、将来のことも考えることが大切です。

私も、市民の皆さんや企業の皆さんと協力し合いながら仕事を進めていきたいと思っています。皆さんは、これからも、今回学んでいただいたSDGsのことを忘れずに、環境を大事にしようという気持ちを持っていただきながら、家族や友だちの皆さんと協力し合って、身近なことから取り組んで、このすばらしい札幌の環境を守って行ってほしいと思います。

**○土屋佳歩副議長** ありがとうございます。

次に、札幌市から子ども議員への質問です。

各委員会の提案やテーマについて、市役所の方で質問や感想、意見などのある方は挙手をして、指名されたら、発言してください。

それでは、質問、意見などのある方は挙手をお願いします。

秋元市長さん、よろしくお願いします。

**○秋元克広市長** 今日は、四つの委員会からさまざまなご提案をいただきました。

先ほどそれぞれの提案に対してお答えをさせていただきましたが、10月から皆さんがそれぞれのテーマで勉強し、学んでいただいて、その中から自分たちで考えて、自分たちでできることは何かということからいろいろな提案をいただきました。本当にありがとうございます。

質問を皆さんにしたいと思います。

四つの委員会の皆さん、それぞれ全員に質問したいと思います。

これまで学んできたことで、それぞれのテーマごとで新しくやり始めたこと、あるいは、心がけるようになったようなことがあれば、それぞれの委員会から教えていただきたいと思っています。

○土屋佳歩副議長 ただいまの質問について、子ども議員は回答をお願いします。

<sup>エスディージーズカッコ</sup>SDGs（札幌だっがんばるッス<sup>カッコトジ</sup>）委員会の湊華子ども議員。

○湊華議員 学校のクラスで、SDGsについて学んだから、こういうキャラクターとかあったよとか、いろいろなことを教えていたら、みんながびっくりしたから、もっともっと教えてあげたいなと思っています。



○土屋佳歩副議長 他の委員会の子ども議員はどうですか。

<sup>カ'ーモンビローポー</sup>C'MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会の國井祐寧子ども議員。

○國井祐寧議員 <sup>カ'ーモンビローポー</sup>C'MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会の國井祐寧です。お願いします。

私は今回のテーマを通して、バスを前より多く利用するようになりました。

今回の委員会の話し合いの中で、家族や友達に、どうしたらバスに乗るか聞いてみようということを宿題にしたことがあって、そのときに、友達や家族と、どうしたらバスに乗るのだろうということを少しでも話し合えたので、そういうことを積極的に自分からするようになりました。

これからも、バスをたくさん利用しようと思います。



○土屋佳歩副議長 他の委員会の子ども議員はどうですか。

災害半端ないって委員会の杉岡璃音子ども議員。

○杉岡璃音議員 災害半端ないって委員会に入ってから、災害についての本をよく読むようになり、防災についてもっと学びたいと思いました。これからも、防災についての知識を身に付けたいと思います。



○土屋佳歩副議長 他の子ども議員はどうですか。

<sup>ユ'エス'エー</sup>U.S.A.委員会の武田俊介子ども議員。

○武田俊介議員 今までは、障がいを持っている方に対して、冷やかな目で見ってしまったことが多々ありました。しかし、今では、障がいを持っている人に対しても温かい心を持てるし、ばかにするような友達に対しても、「そういうのはやめようよ」と言えるようになりました。



○土屋佳歩副議長 ありがとうございます。

他に質問などはございませんか。

岸副市長さん、よろしくお願いします。

**○岸光右副市長** 副市長の岸と言います。



子ども議会の皆さん、四つの委員会でそれぞれ話し合いをしっかりと重ねてもらって、大変具体的な提案をしていただいたと思っています。

最初に、感想だけ言わせていただきたいと思います。まず、災害半端ないって委員会の皆さんからは、防災検定とか子ども防災部という提案がありました。これは、子どもたちが防災ということについて継続的に学んでいくという仕組みとしては非常に良いなと思いました。子どものときからしっかりと防災についての知識を重ねて、防災について、しっかりとした考えを持った大人に育てていくという意味で、非常に良い取組だと感じました。

それから、C'MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会の皆さんは、バスに楽しく乗っていただく工夫ということで、具体的な提案をしてもらいまして、ありがとうございます。

これから、特に高齢者、お年寄りが増えて、車をなかなか運転できなくなる人も増えていくということで、バスという公共交通機関を絶対なくしてはいけないものなので、たくさんの人に乘ってもらおう工夫はもっともっとやっていかなければいけないと改めて感じたところです。

それから、U.S.A.委員会の皆さんには、障がい者とのコミュニケーションを非常に真剣に考えていただいて、ありがとうございます。

私も若干そういうところがありますが、人に声をかけるというのは、簡単そうで非常に難しいことだと思います。私はこういうお手伝いができますというのを自分で発信することは非常に大事なことだと思いましたので、そのことをきっかけに、その場面でなくてもいろいろなコミュニケーションが障がいのある人、ない人の中で発生していくかなと思いました。

それから、SDGsというのは、これからの取組の中で非常に大事にしていかなければいけないことだと思います。札幌市としても、札幌のまちとしての価値を高めていくことについて、SDGsの考え方でいろいろなことを進めていくのは非常に大事だと思いますので、本当にたくさんの人に知ってもらいたいという意味で、皆さん方のご提案は非常に大切だなと感じました。

感想は以上ですが、C'MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会の皆さんに一つだけ質問させてもらいます。

楽しくバスに乗る工夫についていろいろとご提案してもらいましたが、特に冬はなかなかバスが来なかったりする場面があったりするので、バスを待っている間を楽しく過ごせるような工夫やアイデアがあったら聞かせてもらいたいなと思いました。よろしくお願いします。

**○土屋佳歩副議長** ただいまの質問について、子ども議員は回答をお願いします。

C'MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会の遠藤朱莉子ども議員。

○遠藤朱莉議員 カ、モ、ン、ビ、ポ、レバス乗ろう！！委員会の遠藤朱莉です。

私は、バス停の近くに小さい小屋があるところからよくバスに乗りますが、そういうところに赤ちゃん連れの親御さんや小さい子どもが来たりすることが多いのですが、そういうときに、泣きやんだ後に、楽しくなるような子ども用の本とかを置いたら良いと思います。



○土屋佳歩副議長 他の子ども議員はどうですか。

カ、モ、ン、ビ、ポ、レバス乗ろう！！委員会の大城菫乃子ども議員。

○大城菫乃議員 カ、モ、ン、ビ、ポ、レバス乗ろう！！委員会の大城菫乃です。

私がバスを待つときは、いつもスマホをいじってしまいましたが、多分、高校生とか中学生だったら、結構、みんながスマホを持っていると思うので、そのバス停にバスについてのものだったり、暇つぶしになるようなQRコードやリンクを書いて貼っておけば、みんなは何だろうと思って見たりするので、そうしたら良いと思います。



○土屋佳歩副議長 ありがとうございます。

他に質問などはございませんか。

長谷川教育長さん、よろしくお願いします。

○長谷川雅英教育長 教育長の長谷川です。



本日は、とても素晴らしいご提案を本当にありがとうございました。

皆さんが、それぞれ課題を見つけて、そして、しっかりと勉強して、検討して、解決策をまとめ上げて、みんなによく伝えるようにしていただいたこと、本当にとてもわかりやすかったです。教育委員会としても、とてもうれしいです。

私から、防災の関係で一つ質問したいと思います。

災害半端ないって委員会のご提案は、本当に参考になりました。教育委員会は、今回の地震のときに、大規模な停電があつて、各学校に連絡するときにはすごく苦労しました。つくづく、日頃からの備えというものが大事なのだなと感じております。

皆さんの提案の資料の中でも、自分の命を守るということで、例えば、避難するとき、家にいるとき、避難所にいるときの対応策がそれぞれ示されていたことはとても大事だと思います。今回の地震は、午前3時ということで、皆さんは寝ていた時間帯ですが、もし皆さんが登校している時間帯だったらどうなっただろうかということで、そんなときに皆さんがきちんと適切に行動できるようにするためにはどんなことが大事だと思いますか。

それから、そういったときに、こういった避難訓練をすると良いのかなという二つについ

て、皆さんの良いアイデアがあれば聞かせていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

○土屋佳歩副議長 ただいまの質問について、子ども議員は回答をお願いします。

災害半端ないって委員会の小竹彩芽子ども議員。

○小竹彩芽議員 日頃から防災について勉強して、災害が突然起きたときのために訓練しておけば良いと思います。



○土屋佳歩副議長 他の子ども議員はどうですか。

災害半端ないって委員会の鈴木絢音子ども議員。

○鈴木絢音議員 災害半端ないって委員会の鈴木絢音です。

もちろん、普段から防災についてどうしたら良いかを学ぶことも大切ですし、もし登校中であれば、登校中の避難訓練はさすがに難しいと思うので、それこそ、シミュレーション映像とかを作って見せたりすれば、もちろんびっくりするとは思いますが、早く冷静になれると思うので、普段から備えておくことが大事だと思います。



○土屋佳歩副議長 ありがとうございます。

他に質問などはございませんか。

可児子ども未来局長さんよろしくお願ひします。

○可児敏章子ども未来局長 子ども未来局長の可児と申します。



私からは、<sup>エスディージェーズカッコ</sup>SDGs（札幌だつてがんばるッス<sup>カッコトジ</sup>）<sup>カッコトジ</sup>委員会の皆さんにお聞きしたいと思ひます。

SDGsという本当に難しいテーマを選択して、そして勉強され、ある意味、非常に抽象的で幅広い取組ですが、お話にありましたとおり、自分たちの生活にとって非常に身近なものとして捉えて、ある意味、誰でも実践できるものだとわかったことにたどり着いたこと自体が本当に素晴らしいことだと思います。そして、自分たちで気付いたことを広く周知していくことが大事だということで、具体的な周知方法の提案があったところです。

そこで、<sup>エスディージェーズカッコ</sup>SDGs（札幌だつてがんばるッス<sup>カッコトジ</sup>）<sup>カッコトジ</sup>委員会の皆さんにお聞きしたいことは、SDGsには17のゴールが示されております。先ほどの答弁の中でも、17の目標はすべて大事であるというお話がありました。個人的で結構ですので、一番大事だと思う、あるいは、関心が高い、そういったゴールはどれか、そして、そのゴールを選んだ理由についても教え



ていただきたいなと思います。よろしく願いいたします。

○土屋佳歩副議長 ただいまの質問について、子ども議員は回答をお願いします。

<sup>エスディー・ジーズ・カッコ</sup>SDGs（札幌だってがんばるッス<sup>カッコトジ</sup>）委員会の下田悠矢子ども議員。

○下田悠矢議員 <sup>エスディー・ジーズ・カッコ</sup>SDGs（札幌だってがんばるッス<sup>カッコトジ</sup>）委員会の下田悠矢です。

僕は、12番目の「つくる責任つかう責任」という目標が個人的に大事だと思っていて、「つくる責任つかう責任」を大事にすると、他の目標も達成できるということで、それをやればいろいろなところに関わってくるから良いのではないかと思いました。

○土屋佳歩副議長 他の子ども議員はどうですか。

<sup>エスディー・ジーズ・カッコ</sup>SDGs（札幌だってがんばるッス<sup>カッコトジ</sup>）委員会の池田葉月子ども議員。

○池田葉月議員 <sup>エスディー・ジーズ・カッコ</sup>SDGs（札幌だってがんばるッス<sup>カッコトジ</sup>）委員会の池田葉月です。

12番の「つくる責任つかう責任」も大事だと思いますが、北海道という土地の中で一番身近に思うのは、14番の「海の豊かさを守ろう」だと思います。

14番の「海の豊かさを守ろう」を選んだ理由は、近年、函館のイカの漁獲量も減っているし、イカだけではなく、全体の魚の漁獲量も下がっていることから、環境の問題も関わっていると思いますし、それだけでなく、人間の手による乱獲も影響していると思うので、私たちにとって一番身近なものは、やっぱり海だと思います。

○土屋佳歩副議長 ありがとうございます。

以上で、意見交換を終了します。

ここで、議事の進行を議長に交代します。

## 7. 平成30年度札幌市子ども議会提案書手交

○吉川すず議長 続きまして、子ども議会提案書をU.S.A.委員会の松本桃佳子ども議員から秋元市長さんにお渡しします。

秋元市長さんと松本子ども議員は、演台の前にお越しください。

〔平成30年度札幌市子ども議会提案書手交〕



○吉川すず議長 秋元市長さん、松本子ども議員、ありがとうございました。

## 8. 札幌市長あいさつ

○吉川すず議長 秋元市長さん、本日は、長時間にわたり、いろいろと丁寧に答えていただきました。どうもありがとうございます。

最後に、秋元市長さんからごあいさつをいただきます。

秋元市長さん、よろしく申し上げます。

○秋元克広市長 今日は、長時間にわたって、ありがとうございました。

そして、四つの委員会の皆さん、10月からそれぞれのテーマについて勉強して、そして、自分たちで何ができるかということ、これを広げていくためにどうしていけば良いかということ自分たちで考えていただいて、それを提案としてまとめていただき、先ほどそれぞれ皆さんに発表いただきました。本当にわかりやすい内容にまとめていただいて、そして具体的な提案、それぞれのテーマに沿った本当に効果的な提案をいただきましたことを改めて感謝を申し上げたいと思います。

恐らく、今回、いろいろなテーマで皆さんが学んだこと、共同作業でまとめてくれたことは本当に良い経験になるのではないかなと思っていますし、今回のことをきっかけに、さま

ざまな世の中のこと、また、自分たちでできることを考えて具体的な行動をこれからもとっていただければありがたいと思っています。本当にありがとうございました。

そして、今日の議会を取りまとめていただきました議長さん、副議長さん、本当にスムーズな議事の運営、お疲れさまでした。ありがとうございました。そして、この子ども議会のサポートをしていただきました学生サポーターの皆さんにも、改めて感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

今日は、傍聴席にもたくさん保護者の方々もいらっしやっていますが、今日発表いただいた皆さんには、私だけではなくて、こんなに皆さんがいろいろなことを考え、そして、いろいろな視点でものを考えてくれているのだなということを改めてうれしく思いますし、札幌の子どもたちは良くやっているぞと思ったところです。

これからも、学校のことであろうかと思えますし、友達のこと、世の中のこと、たくさんのかんことをできるだけいろいろなことに興味を持って、自分なりの考え方、そして、自分としてどうしていけば良いかということを考える習慣づけをしてもらえればと思います。そして、できれば、お友達やご家族の人たちと話し合う、ご近所の人とも話し合う、朝会えば「おはようございます」、「こんにちは」というようなことで、普段からいろいろな方に気軽に声をかけ合う社会を作っていければと思っています。

皆さん方が、将来にわたって、この札幌や北海道、そして日本で明るく安心して暮らしていけるように、改めて頑張っていかなければいけないとも思ったところでもあります。

本当に、長い時間をかけて勉強をしてくれたこと、皆さんで話し合っていたこと、まとめて発表いただいたことを改めて感謝を申し上げますし、この取組をぜひ続けて、いろいろなことにチャレンジしていければありがたいと思います。

本当にありがとうございました。

**○吉川すず議長** ありがとうございました。

今回学んだ経験を今後活かしていけるよう、私たちも努めていきたいと思っています。

秋元市長さん、そして職員の皆さん、どうぞよろしくお願いします。

## 9. 札幌市議会副議長講評

**○吉川すず議長** 続きまして、市議会の三宅副議長さんから、本日の子ども議会のご感想をいただきたいと思っています。

三宅副議長さん、よろしくお願いします。

○三宅由美札幌市議会副議長 子ども議員の皆さん、どうもお疲れさまでした。



今日、それぞれの委員会が発表されたことは、札幌市が抱えている大きな問題です。そのことについて、全体的な講評ですが、皆さんならではの意見を聞くことができました。その提言は優れておりまして、皆さんが一生懸命勉強した、そして、自分の目でこの現状を見た、みんなで議論して、どうしたら良いかを考えた、意見表明では、本当にわかりやすく、みんなに通じるような言葉で発言していただきました。全体的に見て、大変実りの多い子ども議会だったと思います。参考にできることが私にもたくさんありました。

それでは、一つひとつの委員会の講評に移っていきたいと思います。

災害半端ないって委員会は、本当に半端ないって委員会という名前がぴったりのような胆振東部地震でございました。その中で、何が必要かを考えて、札幌防災検定、このことは非常に防災意識を高めるためには良いと思います。

それから、子ども防災部の中で、町内会中心で防災訓練が行われているのですが、ここに子どもの意見をどう取り入れて、どう参加するか、このようなことを私ども議会でも考えてみたいと思います。

また、防災検定では、日頃の備えの他に、避難所運営ゲーム（HUG）というものにも触れておりました。これは非常に大事な視点だと思います。大きな災害に打ちひしがれた大人たちが子どもたちの頑張る姿を見て、そして、さまざまな声を聞くことによって、どれだけ励まされて未来に希望を持てるのか、このことを強く感じたところでございます。

次に、<sup>カ</sup>MON PEOPLE <sup>ヒ</sup>バス乗ろう！！委員会は、これからの札幌市で大きな課題です。自動車免許を返納して、公共交通機関に頼らなければならないお年寄りがたくさん増えてまいります。そういった中で、買い物難民とか、病院に行くのも不自由だということで、バスに頼らざるを得ないけれども、もう既に自動車の普及で自動車を使う人が多いので、バス路線がなくなってしまう、あるいは、バスの来る間隔が空いてしまうということで、今、郊外の方では札幌市も大変困っているところです。

その中の提言は、非常におもしろいことと思えました。バスの理想と将来についてですが、私が勤務しているときに一番嫌だったのは、冬のバス停です。雪に吹きさらしになりながら、いつ来るかわからないバスを待っていた、ああ、今日も通わなければならないというようなことで、大変気が重くなった覚えがあります。

そこで、大変ユニークな提案は、長崎市のフルーツバス停を札幌にも導入できないかということで、お年寄りや小さいお子さんには雪を防ぐものがいらいます。さらに、子どもたちが喜ぶような熊などの停留所、それぞれテーマを持った停留所を作って、フォトジェニック、写真を撮るスポットにしようという提案は非常に良いと思えました。

また、バスの中ですが、私も若い頃にバスを利用していましたが、子どもたちの絵がずっと飾ってありました。それを見るのが非常に楽しみでした。いろいろな絵が飾ってあるということで、温かい気持ちになったことも覚えております。実現するように、これも努めてい

きたいと思います。

次に、U.S.A.委員会ですが、障がいのある人とのコミュニケーションについて、札幌市は障がい者コミュニケーション条例を平成29年に作りましたが、ヘルプマークと言って、内部障がいでは表からは気付かない人のためのカードが発行されて、その人たちは着けております。外部からわかる障がい、目の不自由な方はわかるから良いのですが、内部障がいの方にも配慮が必要だと思っております。そして、赤ちゃんがいるマークとかいろいろなマークは当事者の方が着けていますが、この委員会からは、助けられるマークを作成しようということで、これは非常に良い提案だと私は思っております。障がいのある人がお願いするのではなく、子どもたちとコミュニケーションをとれること自体も大変ありがたいことで、うれしいことだと私は思っております。

ある障がいの人から聞いた言葉ですが、いろいろな障がいに対する機器はどんどん発達してきている、しかし、自分たちが一番元気に生きられるのは、周りの人とのコミュニケーションです。ですから、ソフト面、周りの人のマインド、心が大切なんだ、その中で自分たちは元気に暮らしていけるという言葉ももらいました。これに通じるものが助けられますマークにはあると思います。

この将来の姿を考えて、多くの子どもたちが助けられるカードを持っている、また、大人たちも持っている、そういったことで、どれだけ障がいのある人の生きる力に通じるかということを感じたところです。

日頃からあいさつをして、声をかけられる環境というか、自分自身を備えていくことも非常に大事で、大変良い提言だったと考えております。

最後に、<sup>エスディー・ジーズ・カッコ</sup>SDGs（札幌だつてがんばる<sup>カッコ</sup>ッス）委員会です。

今日、私はSDGsのバッジを着けております。着けていますが、SDGsとは何だという人はものすごく多いです。それは、17項目にわたる項目全部を覚えられないということもありますが、私たちの暮らしのすべてがこの17項目に続いていると思っております。

<sup>エスディー・ジーズ・カッコ</sup>SDGs（札幌だつてがんばる<sup>カッコ</sup>ッス）委員会では、自分たちができること、ごみの減量とかりサイクルなど、環境面での発表がありました。大変良い発表だったと思います。SDGsそのものを広めていく活動に今後とも取り組んでいきたいと思っております。

それから、最後になりますが、SDGsは、なかなか覚えづらいのですが、「Sustainable：持続可能な」、「Development：開発」、「Goals」で、2030年がゴールになっております。2030年は、まだ決まっておりませんが、大事な冬季オリンピックの招致活動に入ることになっております。SDGs未来都市に選ばれていることもありますから、しっかりとした環境を私たち議員も、市民も、子どもたちも作っていかねばならないと思っております。

もうちょっと詳しくSDGsについてお話ししたいと思います。1「貧困をなくそう」、2「飢餓をゼロに」、3「すべての人に健康と福祉を」、4「質の高い教育をみんなに」、5「ジェンダー平等を実現しよう」、これは性の違いに関わらず平等でなければならないということ。6「安全な水とトイレを世界中に」、7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、

8「働きがいも経済成長も」、これは働いている人が生きがいを持って働く、これが何よりも重要だということです。9「産業と技術革新の基盤をつくろう」、10「人や国の不平等をなくそう」、11「住み続けられるまちづくりを」、これは、災害半端ないって委員会やC' MON PEOPLE バス乗ろう！！委員会の発表のように、持続可能なまちづくりにつながっていくと思います。また、12「つくる責任つかう責任」は非常に大事だということがわかりました。13「気候変動に具体的な対策を」、14「海の豊かさを守ろう」、15「陸の豊かさも守ろう」、北海道民としては、この豊かな大地、そして海をしっかりと守っていくことが大切だと改めて気付かされたところがございます。それから、16「平和と公正をすべての人に」、最後の17「パートナーシップで目標を達成しよう」。あらゆることがSDGsのゴールに向けてここに載っております。そして、すべての委員会の方々の提言は、SDGsのゴールに向けて重要なところだと思っております。

今日は、そういうことに気付かされました。本当にありがとうございました。

○吉川すず議長 ありがとうございました。

今、三宅副議長さんからお褒めのお言葉をいただき、とてもうれしく思います。

三宅副議長さん、ありがとうございました。

## 10. 閉 会

○吉川すず議長 皆さん、本日はお疲れさまでした。

今回は、地震の影響で2回分の議会が中止になってしまい、時間も限られていたと思います。皆さんは、その中で何か得たものや感じたことなどはありましたか。

小学生から高校生まで、いろいろな人と自分の意見を交換し合うこと、さまざまな問題のために何をしたら良いか考えること、どれもなかなか経験することのできないことです。今回経験したことは、今後の皆さんの生活の中で必ず役に立つと思います。

この先もずっと子ども議会が開催され、活発な意見が交わされることを願っています。そして、その中で発言されたことが札幌市のまちづくりに活かされることを期待します。

最後になりますが、積極的に意見を出してくれた小学生、議論の中心になってくれた中高生、それを支えてくださったサポーターの方々、昼食の準備や送迎など子ども議会の活動に協力してくださった保護者の方、ありがとうございました。また来年、ここで会いましょう。

それでは、これをもちまして平成30年度札幌市子ども議会を閉会します。

皆さん、ありがとうございました。

午後3時15分閉会

